



新エネ等利用法(RPS法)と太陽光発電住宅

■新エネ等利用法(RPS法)とは?

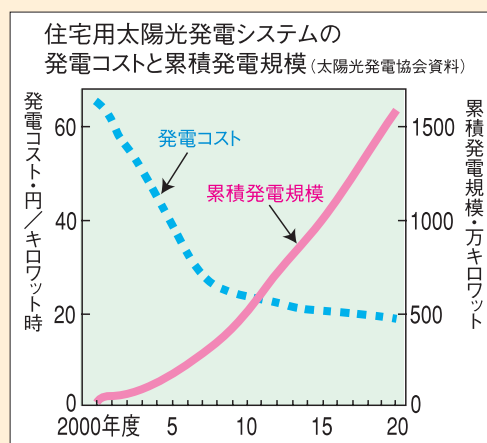
石油代替エネルギーの利用推進を目的として、今年4月からRPS法(Renewables Portfolio Standard:「電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法」)が施行されました。電力会社に、販売電力量に応じて一定割合以上の新エネルギーから発電される電気の利用を義務付ける法律で、「新エネ等利用法」とも呼ばれています。新エネルギーとは、風力、太陽光、地熱、小水力、バイオマスの5種類で、電力会社は、自ら新エネルギーで電気を発電するか、他の事業者から新エネルギーによる電気を購入しなくてはなりません。

■日本は世界一の太陽光発電普及国

電力会社は、一般家庭に設置した太陽光発電システムからの「余剰電力買い取り分」も、RPS法の義務量に組み込むことができます。日本の太陽光発電の導入量は45.2万kWで世界一。屋根一体型の太陽電池や、ガラスのような使い方ができる可視光透過型太陽電池など、住宅建材としての可能性が広がっています。さらに日本は、世界最大の太陽電池生産国でもあります。「新エネ等利用法」によって太陽光発電の導入が促進されれば、量産効果で太陽光発電システムの価格はさらにコストダウンできるはず。太陽光発電搭載のオール電化住宅が日本の家のスタンダードになる日も、そう遠くはないかもしれません。

太陽光発電の導入量 (01年末の累計、単位:万kW)		各国における発電電力量に 占める新エネルギーの割合 <2010年目標>
日本	45.2	11.3%
ドイツ	19.5	12.5%
アメリカ合衆国	16.8	9.2%
オーストラリア	3.4	—
イタリア	2.0	25.0%
オランダ	2.0	—
フランス	1.4	21.0%
韓国	0.5	—
スウェーデン	0.3	60.0%
イギリス	0.2	10.0%
デンマーク	0.2	29.0%
(IEA調べ)		出典:H14年・資源エネルギー庁 新エネルギーの現状と問題点

※太陽、風力、廃棄物、水力、地熱等を含む



くうきはなし

空気汚染に対する気がかりは どんどんふくらんでいる!

日本人の3大無料モノ「空気・水・安全」に関する調査によると、日常生活において、意識する度合いが最も低いのが「空気」で、逆に最も高いのは「水」でした。しかし、将来最も心配(気がかり)なものはどれかという問いに対して、「空気」が大きくふくらんでいるのが注目されます。(図1)

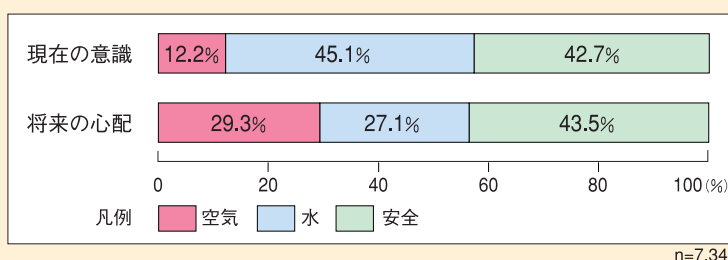
空気について将来気になるのは、「大気汚染」「車の排気ガス」「二酸化炭素(CO₂)」「春先などの花粉」などです。

詳しくはダイキンホームページをご覧ください。

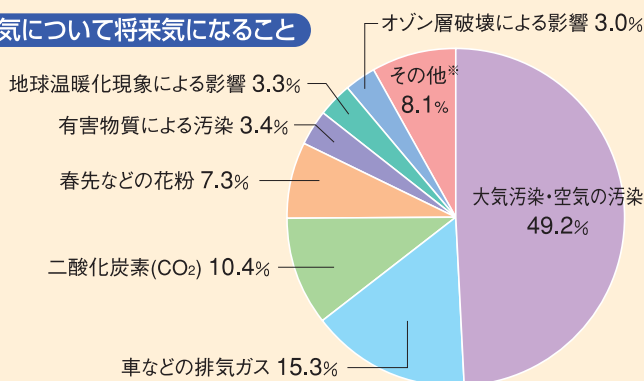
<http://www.daikin.co.jp/press/kuuki.html>

出典:ダイキン工業「第2回空気感調査」
(2002年10月~11月)

図1 空気・水・安全の中で最も意識が高いもの・将来最も心配なもの



空気について将来気になること



※その他:工場排気による大気汚染、環境汚染による空気の汚れ、ダイオキシン問題